

2021年度 外部評価委員会

(大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の各任に係る事業に関する会議)

2022年3月15日(火)

10時開催

北海道社会事業協会帯広看護専門学校

議題1. 令和3年度学校運営目標と運営計画に関する評価、自己点検・事項評価報告書を報告

資料1. 2021年度 北海道社会事業協会 帯広看護専門学校 事業計画 評価

資料2. 2021年度 自己点検・自己評価報告書

議題2. 1の報告に関して、学校運営状況が教育理念・目標に基づいて為されているかの議論

1) 教育体制と方向性

2) 学生支援 学生メンタルヘルスケア、コロナ感染対策等

3) 受験者・入学者確保について

出席者

構成員：北海道社会事業協会 本部 看護局長 川畑いづみ 様

臨床実習先責任者 帯広病院 看護部長 浜名真由美 様

司会・書記 北海道社会事業協会 帯広看護専門学校 教務部長 加藤由美

議事録

会議は、3月15日WEB会議で実施した

教務部長から、学校運営事業計画評価、自己点検・事項評価報告書を報告

報告後、議題2について意見交換

【 両委員からの質問・意見 】

委員質問：課題の国際看護について、災害看護を中心に講義をしてもらってるようだが、どのような方が講義を担当しているのか。また国際というキーワードが入っているが、災害看護の中で網羅できているのか

学校回答：災害を中心に認定看護師に講義をしてもらっているが、国際という広い視点になるとちょっと難しいところがある。

委員質問：それ以外の講師の先生 国際的な問題例えば災害だけでなく、ウクライナの問題や感染の問題など国際的な情勢も踏まえて話をしてくれる講師の見通しはないか

学校回答：大学の先生に相談したこともあるが、看護学校で何を伝えた方がいいのか学校としても吟味が必要。また他校の先生から国際看護している方オンラインの講師紹介して頂けるという話

もあり検討をしていこうと考えている。実際カリキュラム改正の時に国際という言葉は強く打ち出されていたが、地域の看護学校では難しい部分もあるがオンラインなど活用していきたい。

委員意見：大学の先生で国際的に活躍されていた先生など。看護大学の先生に相談してみてもどうか。感染のことなど国際的にどのような動きになっているのかなど。ヨーロッパと日本の違いなど。ネット環境を使って講義をしていただくことを考えていく必要あると思われる。

学校回答 看護大学の先生の方が意図を汲んで下さるので検討したい。

委員質問：今後カリキュラム改正に向けて、病院として協力して欲しいことはあるか。

学校回答 カリキュラム改正後は実習時間が短くなる。1時間60分が45分となる。短い時間の中で経験を積ませていくことになる。実際入院期間は短縮しているため3週間実習だと、患者さんを2名受け持つことも少なくないため、2週間でも看護過程の展開できると思っている。短い中でも効果的な指導を望む。技術面臥床したまま清拭、陰部洗浄など技術を積極的に取り組めるよう経験させてほしい。見せるだけでなく、手が出るように受け持っているなかで、協力をお願いしたい。

委員意見：日常生活援助が介護福祉士が実際することが多くなってきている。看護師の視点を病院指導者として教えていけるよう指導者の中で徹底できるようにする。看護学生が技術をする目的を指導者、または病棟全体に周知できるようにしていく。

学校回答 今後も看護師の視点を教授して頂きたい。

委員意見：短い期間の中で看護過程を展開していくための情報収集力、コミュニケーション力は、学生のうちから力をつけていくところ。臨床に出たときの実践力になっていくと考える。

カリキュラム 看護師を医療的な方向へという意図が随分見える。本当にそれがいいのか。急性期はいいが、日常生活支援者としての看護師の視点が必要である。援助の意図や観察ができることが患者の苦痛の軽減につながる。

学校回答 臨床判断能力に重きを置いているので。重要なのは分かるし思考は必要。やはり学生は日常生活援助から患者を理解することから始まっていくので、そこから大事にしていく。

委員意見：もちろん専門性を持つことが大事。やはり人として、その上に専門性がある方がいいのではないか。

学校回答 人を大事にするという教育理念を基にすすめていきたい。

委員意見：学生の教育の方向性はそれで良いと思います。知識は勿論必要であると思うが、教育理念を土台とした教育を進めていってほしい。

委員意見：学生確保については、指定校となるべき学校が国家試験に合格できるのか。地方から呼べることができるか。リクルート活動を活発にしていくことが課題であるのではないか。

学校回答：今後学生の確保は大きな課題である。指定校の学校選択も慎重さが必要であると考え

ている。学習を継続できる力、実習を乗り越えられる力、何より国家試験に合格するために努力できる人材が必要。教員間でも十分話し合いをし、高校の先生にも情報を得ていきたいと考えている。今後十勝には2校が新設予定である。十勝管内だけで看護学校の定員が75名増加することになる。受験生・新入生の確保が非常に厳しい状況になる。

委員意見：実習病院自体の良さもアピールが必要になってくるだろう。看護学生・看護師確保のためにも地域貢献や実際、病院の看護の評価など必要であると思う。

以上